

# 知識探訪

## 多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

### マレーシアの少数言語

野元裕樹 (東京外国語大学大学院総合国際学研究院准教授)

マレーシアの言語についてよく話題に上るのは、「英語が通じる」とか「華人が英語・華語・マレー語を流ちょうに話せる」とかいった都市部の言語状況に基づく言説だろう。しかし、マレーシアには現地人ですら知らない少数言語が多く存在する。ここでは話者数が100万人未満の言語を少数言語とし、さらに土着の言語に話を限定する。

キリスト教系の少数言語の研究団体である国際SILが刊行する『エスノログ』2023年版によると、マレーシアには131の言語がある。ただし、言語と方言の区別は必ずしも明瞭ではなく、この数字はあくまで概数だ。『エスノログ』の示す言語数は多くなりがちだ。

表は筆者が少数言語をカウントしたものだ(話者数不明のものは筆者の知識で少数言語を認定)。サバ州・サラワク州の言語はすべてマレー語と同じオーストロネシア語族に属す。半島部の言語のうちマラッカ・マレー語クレオールは16世紀に移住してきた南インド出身者と現地人の婚姻の結果生じたマレー語変種だ。その他はオランダスリ(先住民)の言語で、ドゥアノ語はオーストロネシア語族、他3言語はオーストロアジア語族に属す。

マレーシアの少数言語

話者数	言語数	例		
		サバ州	サラワク州	半島部
~百万	4	カダザン・ドゥスン語、スルー語	イバン語、中央ムラノウ語	—
~十万	22	西海岸バジャウ語	ピアタ・ピダコ語、東ブナン語	セマイ語
~一万	32	バルアン・ムルット語	パラム・カヤン語、クラビット語	パテツ語
~千	22	スルガイ・ムルット語	スカパン語、ロンワット語	ドゥアノ語
~百	3	—	スィハン語、バトゥ・ブナン語	テンエン語
不明	25	サバ・ピサヤ語、ボンギ語	ナロム語	マラッカ・マレー語クレオール

イバン語とセマイ語以外は、言語の活力の指標EGIDSでレベル6「危機にひんする」またはより危機的なレベルにある。従来、危機言語の記録・再活性化は専ら欧米の言語学者や国際SILにより行われてきた。

国内はというと、マレー語にすら無関心、それどころか敵対心を抱くマレーシア人(主に華人)が結構いた(筆者は「マレー語なんて研究して意味があるの?」と言われたし、マレーシアの大学に留学した学生はルームメイトに「マレー語を話さないで!」と言われたらしい)。そんなわけで、少数言語への関心は一部当事者を除けば皆無だった。

だが近年、マレーシア人自身による少数言語再活性化の動きが見られ始めた。筆者はインターネットの普及と持続可能な開発目標(SDGs)を二大要因だと見ている。真偽は定かでないが少数言語の研究はKPI(重要業績評価指標)の点数が高いらしく、少数言語を研究する現地研究者が増えてきた。

インターネット上の少数言語再活性化の取り組みを3つ紹介する。

1. ケント・ウィキクラブ: 米ウィキメディア財団が運営

するインターネット百科事典「ウィキペディア」でカダザン・ドゥスン語の記事を執筆したり、同財団が運営する辞書「ウィクショナリー」に同言語の単語を追加したりする活動を行う学生団体。

2. Apa Kata Wanita Orang Asli (オランダスリ女性の声): ユーチューブを中心にオランダスリの言語・文化を紹介する映像を発表するオランダスリ女性グループ。

3. ロセリンド・ワン博士: 自身のウェブサイトや消滅の危機にひんする言語・文化のためのアーカイブPARADISECに自らの母語カヤン語の映像・文字資料を多数公開。

英語が通用するのがマレーシアの強みだが、それに依存し過ぎるとマレー語の経済的価値が上がらず、結果的に多数の少数言語を含む言語的多様性も危うくなる。マレーシアに携わる中で心に留めておきたい。



ケント・ウィキクラブ (Syafiq.y, CC BY-SA 4.0 <https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0>, ウィキメディア・コモンズ経由で)

#### < 筆者紹介 >

米国ミネソタ大学大学院言語学プログラム博士後期課程修了(Ph.D.、言語学)。主な著作に『マレー語の教科書: 詳解文法』(Next Publishing Authors Press、2020年)、『ポータブル日マレー英・マレー日英辞典』(三修社、2016年)、Discourse Particles in Asian Languages (共編、Routledge、2023年)、マレー語読解支援システム『マレー語チュウ太』(https://malay.chuta.jp)など。